

愛媛大学地域創成研究センター活動報告 —平成27年度(2015年4月~2016年3月)—

2015年における地域創成研究センター教員は、センター長・寺谷亮司教授、和田寿博教授、佐藤亮子准教授、川岡勉教授(教育学部)、松野尾裕教授(教育学部)、野崎賢也准教授(法文学部)の6名であり、前3者が当センター専任教員である。2015年度は、下記2部門において、多くの活動を実施した。

1. 学術文化創造部門

各センター教員は、地域に根ざした研究や教育効果を意識した学生との協同調査を実施している。前者には、「松山空襲など戦争体験記録プロジェクト」などがあり、後者の成果の一部は、高知市実習調査報告など、本年度に刊行した地域創成研究年報第11号にも掲載されている。

共同研究の推進・募集と支援に関しては、「えひめ311」、「愛媛グローバルネットワーク」などのNPOとの交流活動を実施し、また「四国遍路と世界の巡礼研究会」などの講演会を支援・後援した。

地域の文化・芸術事業の推進としては、3月8日に、昨年度の第1弾に続くシンポジウム第2弾「注目の発酵茶：どう活かすどう伝える？—産地の連携した取り組みを考える—」を開催し、全国から100名を超える参加者を得て、NHKなどからの取材を受け、同日のニュース番組で放映された。

2. 地域政策部門

同部門におけるシンクタンク機能の推進に関しては、松山市との「道後温泉活性化共同事業」、「道後温泉活性化懇談会」、「松山市清水地区まちづくり協議会」、「松山市中心市街地活性化事業」、「松山市中小企業振興基本条例検討委員会」、さらに「宇和島市津島町御楨地区集落コミュニティ支援事業」、「上島町魚島地域元気アッププロジェクト」、「今治市中心市街地再生基本計画策定審議会」を継続・実施した。

また、和田寿博教員を中心に、経済産業省「平成27年度産学連携サービス経営人材育成事業」に採択され、下記の「産学官連携による観光サービス産業の経営管理を担う人材育成事業」を実施し、12名の修了者を得た。

・試行講座・観光イブニングセミナー計6回(①10月14日：講師・伊東豊氏(中小企業基盤整備機構四国本部松山オフィス)「地域観光産業の活性化と人材育成」、②11月25日：講師・一色昭造氏(石崎汽船株式会社社長)「地域観光と瀬戸内の交通」、③12月2日：講師・宮内雅史氏(いよぎん地域経済研究センター主任研究員)「道後温泉観光の歴史と現状」、④1月13日：講師・宮崎光彦氏(道後温泉宝荘ホテル株式会社社長)「道後旅館業とサービス経営」、⑤1月20日：講師・佐藤誠氏(熊本大学名誉教授/元北海道大学観光高等研究センター特任教授)「持続的なツーリズムと観光サービス」、⑥1月27日：講師・和田寿博氏(愛媛大学地域創成研究センター兼法文学部教授)「まとめ」)

・観光産業振興研究会計6回(①10月28日：報告者・河内広志氏(道後プリンスホテル社長)「『朧月夜』の経営戦略」、②11月11日：報告者・森健次氏「くし秀の地産地消とオーナー型経営」、③11月18日：報告者・小田美恵氏(松山市中島 民宿宝山亭)「離島民宿と地域活性化」、④11月30日：報告者・大倉忠司氏(鳥貴族社長)「鳥貴族の全国展開と経営課題」、⑤12月9日：報告者・奥村武久氏(大和屋会長)「観光立国と地域観光政策」、⑥12月16日：報告者・藤渕利通氏(有限会社内子ワイナリー社長)「内子物産品の経営」)

・産学官連携コンソーシアムの設置、同懇談会の実施

地域貢献事業では、「mit まちなか大学」を開催し、市民に向けた「知」の発信に努めた。今年度は、第1回「商店街ポスター展を通して見えてきた三津の魅力」(4月18日、n's kitchen**&labo 裏倉庫)、第2回「お酒を造ってくれる日本酒酵母—EK1(愛媛酵母)を中心に—」(12月2日、蔵元屋)、第3回「ワイン文化を考える—内子ワインと島根わいん・奥出雲ワインを中心に—」(1月27日、清水ふれあいセンター)を内容とする講演会を実施した。

松山市との共同事業「地域づくり支援セミナー」では、防災をテーマとして、第1回(6月3日~20日、土砂災害・津波のリスクがある地域の減災—粟井地区—)および第2回(10月29日~11月14日、密集市街地の減災—味酒地区—)を実施した。同事業の受講生は62名、うち修了書授与者は55名であり、地域人材の養成に貢献した。(寺谷 亮司)